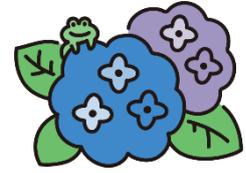


# 生田の風

川崎市立生田中学校  
学校だより 第305号  
令和6年6月20日



## 「思いやり」と「向上心」共に大切にして



校長 中村 隆英

正門の傍らに紫陽花が色鮮やかに咲き、その横には美術部が作成した生徒会テーマ「幾多の糸」が掲げられました。生徒たちは、行事も一段落して、日々の学習や、各種委員会活動、部活動などに取り組んでいます。

さて、7月から三種の新紙幣が発行される予定です。新紙幣の1万円札の肖像には渋沢栄一氏、五千円札に津田梅子氏、千円札に北里柴三郎氏がそれぞれ選ばれました。渋沢栄一氏は埼玉県深谷市の出身で、数々の企業や学校の設立にかかわり、「近代日本経済の父」とも称されドラマの題材にもとりあげられ話題になりました。著書『論語と算盤』には、公益を追求する「道徳」と生産利益を追求する「経済」とともに重視すべきもので、どちらが欠けてもいけないとあります。個人の富ばかり追求するのではなく、周りの人のことを考え、多くの人が豊かになる道を探し求めることの重要性を説き、また、富を得ることだけが幸福ではない、幸福は人それぞれに違うなど、現在の生活においても役立つ考え方や事柄を示されました。日々の生活でも、他の人の幸せを考え一人一人が思いやりをもち、自分の役割や責任を果たすように努め行動することが、向上心や個性の伸長を育み、目標を達成するためにも大切なことであると、改めて感じました。

月末には学校運営協議会を開催いたします。また7月には授業参観、三者面談も予定しています。生徒の活動の様子を参観いただき、ご感想ご意見をいただきながら、夏休みの過ごし方を含め、今後の学校生活について連携、協力してまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

## 生徒主体の学校生活をめざして

6月6日(木)、前期生徒総会が行われました。全校生徒が体育館に集い、今年度の委員会活動や部活動の年間計画、予算案を共有しました。

一年生にとっては初めての生徒総会でしたが、上級生が作り出す今まで経験したことのない引き締まった空気に、真剣に参加しようとする様子が伺えました。生徒一人一人が生田中学校の生徒として、自分たちの活動全体に意識を向ける機会となりました。



## 生徒会年間テーマは「幾多の糸」に

生徒会年間テーマ、「幾多の糸(いくたのいと)」の看板が完成しました。昨年度に引き続いて美術部が作成を担当し、生田中の顔となるようなとても目を引く作品となっています。

各学年色(青、緑、黄)が一本のあやとり糸となって紡ぎ合い、繋がりを大切にしながらさらに活気あふれる生田中を目指していきます。お立ち寄りの際は、ぜひ正門前の看板をご覧ください。

